

# メキシコの自動車関連産業を 高度な「包む」技術で支援する

## メキシコ

「自動車部品等向け梱包材事業展開による産業基盤強化に向けた案件化調査」

2017年6月～2018年2月

「自動車産業の補完産業としての梱包材産業振興に向けた普及・実証事業」2019年8月～2023年2月

埼玉県 カネパッケージ株式会社

梱包材メーカーのカネパッケージ株式会社は、自動車部品向けの「高度梱包材技術」の普及を通じて、メキシコの自動車関連産業の振興に寄与しています。コロナ禍という逆風の中、同国での事業に注力した同社の勝野旭取締役と話をつかいました。

## 自動車部品の梱包に課題を抱えるメキシコ

当社は、設計・製造から販売・物流までの「包む」を科学する会社です。お客さまのニーズに合わせ、梱包効率、積載効率、物流効率の高い梱包材の製造を可能とする独自の設計・加工技術を強みとしています。海外事業は1990年代から始めていますが、以前より注目していたのが世界各国の自動車メーカーの生産拠点であるメキシコでした。

メキシコは、近年、急速に自動車産業が発展してきているものの、部品の調達や製造については十分に整備されておらず、部品の梱包・積載・物流も多くの課題がありました<sup>(注)</sup>。そうした状況は把握していましたが、日本から距離的に遠いメキシコで地盤を築き事業を展開する見通しが立たず、二の足を踏む日々が続いていたのです。

そんな中、メキシコ自動車業界の課題解決と海外展開を両立できるJICA民間連携事業を知り、ぜひ活用したいと思い応募を決めました。

## 職業訓練センター内に技術者の育成コースを開設

案件化調査では、JICAメキシコ事務所やコンサルタント会社のアドバイスを受けながら、グアナファト州経済開発局(SDES)をはじめとする政府の関係機関や、大学、梱包材関連企業などを訪問し、同国の梱包材の現状や課題を調査しました。現地に拠点を持たない当社にとって、各機関からのサポートは大変心強く、おかげで順調に事業を進めることができました。

現地の調査で見えてきたのは、メキシコでは梱包材の規格が十分に整備されていないばかりか、梱包材そのものに対する重要性や必要性があまり認識されていない状況でした。そこで普及・実証事業では、SDESが管轄する「グアナファト州職業訓練センター(IECA)」に梱包材の品質試験・評価設備を設置し、梱包設計技術者の育成コースを開設することにしました。まずはIECAの教官を日本に招き、日本での梱包材技術教育の実際の状況を見てもらいました。参加者からは「メキシコにはない高度な教育だ」、「このカリキュラムをぜひ導入したい」といった感想が上がり、確かな手応えを感じました。

ところが、準備が整い、いよいよ具体的な実証事業を進めようとしたまさにその時、新型コロナウイルス感染症が蔓延したのです。日本から

の渡航や輸送に制限がかかり、IECAへ導入するはずの機器は港で足止めされ、開設した技術者の育成コースもオンラインにせざるを得なくなりました。思わぬ事業の遅滞にかなり焦りましたが、IECAが動いてくれ、現地で座学や実習授業を行ってくれました。そのおかげで、2021年春の渡航緩和後に日本の技術者が訪れた際は、スムーズに育成授業を再開することができました。

## 現地企業とのM&Aや北米への技術展開に繋げる

普及・実証事業の終盤には、IECAシラオ校に「グアナファト州梱包先端センター」を設立し、2022年7月に同校へ梱包材の試作機・測定試験機を供与しました。今後は、これらの機材の活用などを通じて、メキシコの梱包材産業の発展に寄与していきます。

コロナ禍による産業状況の変化もあり、メキシコでの事業は一時的に撤退せざるを得なくなりました。しかし、JICA民間連携事業で築いた同国との良好な関係は続いており、現地企業とのM&Aや、北米への梱包材技術ノウハウの展開などに繋がってきています。

ODA事業は多くの時間と労力を費やす分、現地との関係構築や情報収集をきめ細かく行うことができます。中小企業の海外展開を後押ししてくれるこの制度を、ぜひ活用してみてください。  
(取材時期：2023年6月)

カネパッケージ  
取締役  
勝野 旭氏

メキシコ合衆国  
(United Mexican States)  
首都：メキシコシティ  
人口：約1億2,601万人  
(2020年 国立統計地理情報院(INEGI))  
面積：196万km<sup>2</sup>(日本の約5倍)  
気候：高山気候(首都近辺)  
(年間平均気温：約17℃)

## Episode

### メキシコ最大の産業「自動車」

1994年に北米自由貿易協定(NAFTA)が発効して以降、メキシコの自動車産業は大きく成長し、メキシコ最大の産業となっています。世界最大の市場であるアメリカに隣接していること、40カ国以上の国々との自由貿易協定を締結していること、安くて質の高い労働力で生産ができることなどにより、世界中の自動車メーカーがメキシコに進出し、生産拠点を構えています。



(注)メキシコの梱包材産業

メキシコでは自動車部品向け梱包材産業が十分に整備されておらず、自動車関連メーカーは良質な梱包材を現地調達できていません。そのため、高コストな輸入梱包材に依存したり、十分に梱包されずに輸送することで高い破損率につながっています。それが、余分なコストを発生させコスト競争力を低下させているばかりか、自動車産業メーカー(特に下請け)のメキシコへの進出意欲を低下させていると言われてしています。

会社名：カネパッケージ株式会社  
本社：埼玉県入間市  
設立：1976(昭和51)年  
代表者：代表取締役社長 金坂 良一  
従業員：1,300名(関連会社含む)(2023年6月現在)  
事業内容：各種緩衝材・設計・試験・製造・販売、各種段ボール・OA機器等のソフトバックなどの販売、海外キット製品管理・梱包・トータル物流、人材派遣事業、有料職業紹介事業  
<https://www.kanepa.co.jp/>

## ODA 事業の情報

本記事の事業は、日本政府(外務省)と国際協力機構(JICA)が連携して進める「中小企業・SDGsビジネス支援事業」として採択されたものです。詳しくはJICA「民間連携事業」ページでご確認ください。  
[https://www.jica.go.jp/priv\\_partner/index.html](https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html)



自動車部品メーカーへのヒアリングや既存の梱包材の試験では、不十分な強度での梱包・運搬により荷崩れなどが起きる問題が浮き彫りとなった。



普及・実証事業で導入した振動試験機。自動車部品や精密機器など、デリケートな製品向けの梱包材の耐久試験に不可欠となる。



カネパッケージ本社での包装管理士講座(段ボール加工演習)の様子。参加者が自ら設計した段ボールを使って、梱包機材の操作などの指導を実施した。



Inauguran el Centro Avanzado de Envase y Embalaje en el IECA

IECAシラオ校への機材供与式典にはグアナファト州知事やシラオ市長、在レオン日本総領事、JICAメキシコ事務所長などが出席し、地元メディアでも取り上げられた。